

# 礼拝さいこう

## 誰と一緒に礼拝？ 賛美歌の言葉の再考から

2015年度、特別委員会を対象に実施した『新生讃美歌』アンケートではさまざまな気づきをいただき、第12回礼拝音楽研修会でのフォーラム等、課題を共有してきました。今年度の「礼拝さいこう」ニュースレターでは、2回にわたり「誰と今礼拝するのか？」をテーマに、「礼拝」と「賛美歌のことば」の観点から、特別委員会の3委員会より執筆いただきました。それぞれの教会で、礼拝と賛美の学びと取り組みの一助となることを願っています。

### 「賛美歌の言葉」

部落問題特別委員会委員長 片桐健司（品川）

何の気なしに使っていた言葉が人を傷つけていたことに気がついて驚くことがある。まさか教会で使う賛美歌には、そういう言葉は使われていないかと思ってしまうが、そうとは言えない。部落問題特別委員会では、昨年、連盟の音楽室からの要請で『新生讃美歌』の歌詞を検討してみたところ、「これは」という言葉が次々と出てきた。

そのひとつが「けがれ」という言葉。この歌詞を使っている賛美歌の多くは、自分の罪の深さを表現する言葉として使っている。「汚れに汚れし我が身も」（50番）「罪とけがれに染みし」（129番）「汚れと恥との」（471番）など20曲近くある。

「けがれ」については、死んだ牛、馬の解体

### Index

1-3	誰と一緒に礼拝？	部落問題特別委員会 片桐健司（品川） 公害問題特別委員会 野中宏樹（鳥栖） 「障害」者と教会委員会 斎藤美津栄（多摩みぎわ）
4	中国・四国バプテスト教会連合音楽研修会報告	音楽委員 齋木千秋（松江）
5	第33回教会音楽祭報告	伊藤真知子（百合丘）
6	大分地区奏楽者研修会報告	橋本道子（大分）
7	新生讃美歌483「主と共に歩む」賛美歌紹介	インドネシア宣教師 野口日宇満
8	教会音楽室からのご案内	

などの仕事をしてきた被差別部落民に対して、あの人たちは「穢れている」というように使われ、彼ら彼女らを穢れの多い「穢多（えた）」と呼んで差別するようになった。「罪」と「けがれ」は違うのに、罪が深いことを、「けがれている」というとき、被差別部落の人たちを例えにしているわけで、使いたくない表現である。罪の深さを表すなら別の言葉にしなければならないだろう。

その言葉が使われ始めた頃には何の差別性もなかった言葉が、特定の人を指す悪口として使われるようになると、いつしか、差別語、不快語に変わっていくこともある。その時代の背景によって意味合いは変化していくのだ。今では差別表現と言われている「おし」「つんぼ」「めくら」などの言葉も、つい最近までの口語訳聖書では使われていた。かつては問題なく使われていた言葉でも、ある人たちの「それを言うのはやめてほしい」という叫びがあったときに、私たちはその叫びを真剣に受け止めなくてはならない。新生讃美歌の中には、この他にも「卑しい」「開拓者」「戦い」、さらにかつての天皇制や神社神道で使われている用語などが、気になる言葉がある。

反対に、新生讃美歌の205番「まぶねの中に」は、部落解放キリスト者協議会のテーマソングになっているが、イエス自身が貧しさ、悲しさ、生きる悩みをつぶさになめているということで、わたしたちの生き方への促しがある、評価できる曲である。

言葉を換えればよいということではなく、その言葉の意味を深く考えて、心からの賛美ができるようになることを願う。

## 「ここも神のみくになれば」

『讃美歌』(1954年)90番より、『新生讃美歌』124番

公害問題特別委員会委員長 野中宏樹(鳥栖)

『讃美歌』1954年版で「ここも神の」と、別所梅之助(メソジスト教会牧師)によって訳されたこの曲は、「恵まれた大地 TERRA BEATA」というイギリスの伝統旋律を基にしていると言われ、作詞者はモルトビー・D・バブコックです。バブコックは、米国ニューヨーク州に生まれ、長老派教会の牧師としてロックポートや、ボルティモアなどで牧会した後、ニューヨーク州ブリック長老教会の牧師となって、18ヶ月後にエルサレムへの旅の途中、ナポリで突然亡くなっています。キリスト教人名辞典(日本基督教団出版局)にバブコックの名前は出ていませんが、インターネットで調べてみると彼は「Don't let the good things of life rob you of the best things.」(良いものに、あなたの最高のものを盗ませてはいけません。)という言葉を残しているようです。「ここも神の御国なれば／天地全てが歌い交わす／岩に木々に空に海に／たえなる御業ぞあらわれたる」。私は、バブコックのこの詞は決して「自然賛美」ではなく、被造世界の切なる賛美と祈りの言葉だと考えます。パウロはローマ書8章で「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっている」と語っていますが、この「被造物」という言葉は単数形で用いられています。つまりパウロは、私たち人間も含めた“神さまが造られた一つの被造世界”の“贖い”を指してこう語っていると私は思います。私たちはいつも自分だけの事、今だけの事、“良いもの”を得るために、「最高のもの」である被造世界の調和を崩し、食ってきたのではないのでしょうか。「公害事件」は常にこの貪りと破壊のただ中で私たち人間が引

き起こしてきた出来事です。「こども神の」を賛美する時、私たちは“被造世界のうめき”をどれだけ想像しているのでしょうか。私たちの生き方そのものが問われていると思います。

## 「今、誰と礼拝？」

### 「障害」者と教会委員会委員長

齋藤美津栄(多摩みぎわ伝道所)

わたしたち、障害を持った人とその周りの人たちのメーリングリスト、「まなざしネット」のメンバー、それに「障害」者と教会委員会の委員たちはそれぞれの教会で賛美を楽しんでいます。そのことを一度みんなで確かめてみよう、と2016年10月に金沢教会を会場に「わたしたちと賛美」という主題で公開委員会を持ちました。いろいろな障害の立場から賛美との係わりが語られましたので、その一部を紹介させていただきます。

「力の源・私と賛美歌」とのタイトルで語った福本峻平兄は、「常盤台教会の聖歌隊の賛美を初めて聞いたときに衝撃を受け、それから教会で賛美を歌うことがとても大きな喜びになりました。その後病気で声を失った後も、賛美の歌声に励まされ、とうとう「病床においても、どんな時でも、主を求めている」という思いから「今こそ主、求めよ」という賛美が生まれました。」と語ってくださいました。この「今こそ主、求めよ」という賛美歌はわたしたちの委員会のテーマソングになっています。

視覚障害の神代尚一兄(久留米荒木)は最初に行った教会に点字の賛美歌が置いてあり、それとゴスペル・フォークを楽しみに、教会に通い始めたとのことでした。今は奏楽を担当したり、フルートを吹いたり、賛美歌を楽しんでいて、聖歌隊の指揮までするときがあると。

小館和彦兄(茂原教会)は聞こえないので音楽は理解できないし、クリスチャンになってからも賛美は苦手だったそうです。けれども現在の教会に来てからは、メッセージと賛美に手話通訳があるし、歌詞をプロジェクターで表示してくれるので、今は安心して手話で歌うことができるのを神に感謝しています、と証ししてくださいました。そしてお連れ合いの鄭鎮英姉が『新生讃美歌』24番「歌え歌え、キリストの愛を」を手話で歌ってくださいました。

金沢の集会では歌だけでなく、ゴスペルフラの紹介もありました。言葉ではなかなか理解できない知的障害の人たちでも踊ることを通して神への感謝、喜びを表現できることを目の前で確かめることができました。

これらの証しを通して、賛美歌が障害を持った人たちにも等しく礼拝や人生の大事な要素の一つになっていることを確かめることができました。全国の諸教会が障害を持った人たちと共に礼拝し、共に宣教する教会になっていくことを祈ってやみません。

## 新生讃美歌ブックレット

### 進捗状況 報告

『新生讃美歌』をさらに礼拝で用いていただくため、「参考資料集」を編集しています。

新生讃美歌の特徴、歌い方の工夫、ことばの課題、伴奏や楽譜についての質問に答えるQ&Aコーナー、歌われる中で気づいたことなど、多岐にわたる内容となっています。その他特別委員会へのアンケートや、天皇制用語、不快語について、これまで取り組んでいる賛美歌の「ことば」の課題等、共有していきます。賛美歌用語ミニ辞典にもどうぞご期待ください。

来春、発行予定です！

## 「地方連合音楽研修会報告」

中国・四国連合 音楽委員： 齋木千秋（松江）

2017年 8月11日(金. 祝) 今治バプテスト教会を会場に中国・四国バプテスト教会連合 音楽研修会が行われました。19教会1伝道所の内 14教会 46名の参加がありました。講師には連盟の派遣制度により、青葉キリスト教会、教会員の飯塚道夫先生が来て下さいました。奏楽は 高松常盤町教会の木村法子さんをお願いしました。

午前11時より 今治教会牧師、今井朋恵先生よりメッセージをいただき 開会礼拝を行い、その後「心弾む 喜びの賛美 ～その日のうちに上手くなるボイストレーニング～」と題して研修会がスタートしました。

午前は、声の出し方、喉の開き方、口の開け方などボイストレーニングを学びました。

昼食を挟み、午後は実際に『新生讚美歌』を歌いました。先生の指導を歌と歌の間に受けながら、全11曲を午後1時15分から3時まで歌い続けました。

暑い盛りの日にもかかわらず、皆、初めから大きな声を出し元気にボイストレーニングを通して基礎を学び、実際に賛美歌を歌う時には、学んだことを応用する事ができた事は大きな恵みでした。飯塚先生は、歌と歌の間にユーモアをたっぷり交え、わかりやすく指導して下さいました。

今まで、賛美歌を歌う時に、習慣のように歌っていたのですが、歌詞を理解し、それに合わせるように声の抑揚をつけて賛美することの大切さを知

りました。それにより、まるで自らの信仰の思いを確認するかのように賛美する事が礼拝を豊かにするのだと学びました。

後日、ある方がお葉書を下さり、その中で、「賛美とは、信仰告白なんだ」という事を実感させられました。」と書いておられました。きっと、参加された方々もそのように感じられたのではないのでしょうか。

また、ソングリーダーという存在の大切さも学びました。参加者の内、わずか数名のソングリーダーしかおられませんでした。ソングリーダーでなくとも、その存在がどれだけ大切でわたしたちを心豊かな賛美に導いてくれるのかを確認する時となりました。

礼拝における賛美は、1人で主に賛美すると同時に、他の人々の賛美に対する姿勢や歌声を聴くことも大事なクリスチャンの努めであると思いました。自分なりの精一杯の歌声が他の人との声と合わさり、それを聴くことで、礼拝に参加できているという意識を高め、明日への力となるのだと確信いたしました。

最後に 飯塚道夫先生と出会わせて下さった主に心より感謝いたします。





## 「第33回教会音楽祭」に参加して

伊藤真知子（百合丘キリスト教会）

去る7月8日、東京都世田谷区にある玉川聖学院谷口ホールにて、第33回教会音楽祭が催されました。

教会音楽祭は「教派を超えて、音楽をもって共に主を賛美する集い」として1967年に始まり隔年開催されていますが、今ではエキュメニカルな集会として日本最大規模のものへと輪が広がっています。今回は「心ひとつに 一争いから 交わりへ」というテーマで、7つの教派、約800人の聖歌隊と会衆が力いっぱい主に向かって賛美する喜びを味わいました。

私たち日本バプテスト連盟合同聖歌隊は、K. Routledgeが作曲した「平和はじめて知った」と、黒人霊歌「主イエスのからだ分ち」（新生讃美歌413番）の二曲を、江原美歌子氏がメドレーに編曲し、それぞれの曲に手話を組み入れながら78名（19教会）の賛美を発表できました。この聖歌隊を結成するに当たり事前に参加者が各自に、あるいは各教会ごとに練習をし、大久保バプテスト教会と相模中央キリスト教会で練習日が設けられ、また東京バプテスト神学校では合唱の授業でも取り入れ、準備をしていきました。

当日のリハーサルでは、あまりに大きな聖歌隊ができたので本当に興奮いたしましたし、心は期待でいっぱいになりました。本番では歌の賛美だけではなく、手話という賛美の美しさによってメッセージの力が沸き上がっていく思いに導かれました。「平和」と「パンを分かち合う」という二曲の賛美が重なることによって、礼拝に集められ主の体なるパンに与っていく大切さ、共同体として一つになり、主の恵みの中に包まれていくこと



日本バプテスト連盟有志聖歌隊 手話賛美と共に

で、真の平和を求める姿が、そして平和を造り出すという決意を表すことができたことを喜び合うことができました。

また日本聖公会市原信太郎司祭による説教では、「詩篇96の『新しい歌』は何故歌うのか？」という投げかけがありました。それは「神の力は今も働いている」という常に現在形であり、今ここで私たちが信仰の共同体として、賛美を差し出すことが大切なのだという、共通の神への信頼を差し出し続けるために『新しい歌』でなくてはいけないということが語られ、教派が違っていてもひとつの神への賛美、新しい賛美を生み出し差し出すことの大切さをあらためて確認できました。第34回（2019年）も期待し参加したく願っています。

各地でも教派を超えての音楽祭が開催されているのではないのでしょうか。各地域での賛美の集いに参加し、恵の体験をしていただきたいと思います。



会衆賛美



華人教会、胡弓の伴奏で賛美

# 奏楽者講習会報告

大分キリスト教会 橋本道子(オルガン奏楽奉仕者)

2017年7月8日(土)、講師に高須教会の美登恭子氏をお迎えして、第一回大分地区奏楽者講習会を、大分キリスト教会にて開催いたしました。臼杵教会から2名、別府国際教会から6名、大分教会から7名の奏楽者及び奏楽者講習者の聴講生が参加下さって、奏楽について学びました。その内容はとても充実したものでした。

最初に美登先生は礼拝における音楽の目的や奏楽についてお話しくださいました。会衆賛美について、また奏楽者の在り方や具体的な実践方法、教本の紹介などです。参加者から熱心な質問がいくつも挙がり、あっという間に小一時間が経過してしまいました。

公開レッスンでは7名の方がそれぞれ準備してきた賛美歌をピアノで弾いて、レッスンを受けました。7名の方は年齢も経験値も技量もまちまちですが、各自に合った演奏方法を指導して下さい、聴講する側もとても良い学びとなりました。

また7曲の賛美歌を皆さんと一緒に歌うことができ、喜びと感謝で胸がいっぱいになりました。

普段奏楽をしながら歌うことは難しいので、大きな声と一緒に賛美する喜びを久しぶりにかみしめることができました。

この日の講習会は想定時間を大幅に越え、夕方4時に散会となりました。帰りの電車の時間を遅らせて、時間いっぱいまで談笑下さった先生に感謝でいっぱいの1日でした。

第2回目は9月17日(日)の午後に行う予定でしたが、台風18号の上陸により延期となりました。次回は、あまり知られていない賛美歌を紹介して下さいとのことで、とても楽しみにしています。

この講習会は3回で終了する予定ですが、「奏楽はチームワーク」だと教えて頂いたので、きつとなにかしら次に繋げていくことが出来るのでは…と思います。このような機会と出会いを執り成して下さい関係者の皆さま、主に感謝いたします。」

「主はわたしの力、わたしの盾 わたしの心は主に依り頼みます。 主の助けを得てわたしの心は喜び踊ります。 歌をささげて感謝いたします。」 詩篇28:7



## 【参加者の声】

「真昼のように」の左手の弾き方を教えてもらってよかった。歌いやすいように弾くコツを教えてほしい。 野田みのり (10歳・5年生)(大分教会 ピアノ奏楽奉仕者)

「奏楽の研修を受けるのは初めてでした。奏楽は手探りで奉仕をしているので、期待の大きい初めての研修会でした。美登先生は明るくハキハキとしたお言葉で奏楽奉仕の喜びと恵みを語ってくださり、実技の指導もみなさん喜んで受けることができました。十数年奉仕から遠ざかっていた方も、ふたたび奉仕できるようになりたいという思いを与えられたようです。

最年少で参加した小学5年生のみのりちゃんが、皆の前で一生懸命に弾いている小さな肩が印象的でした。大分の未来を期待できます。今後も回を重ねていきたいと思った研修会でした。音楽に理解のある村田牧師がこまめに連絡を取り、実現を助けてくださいました。近隣の教会からも多く参加があり、これからは励ましあっていける予感がします。賛美と栄光、神にあれ！アーメン。」



大塚九三子(大分教会 オルガン奏楽奉仕者)

## 賛美歌紹介

### 新生讚美歌483 「主と共に歩む」

インドネシア宣教師 野口 日宇満

#### 『神の子』イエスとの出会い

9月25日から29日まで、アジア太平洋バプテスト大会がインドネシアのジョグジャカルタで開かれ、新生讚美歌483番「主と共に歩む」を作詞作曲されたインドネシア・バプテスト連盟のモハマド・サムシュル・イスラム牧師とお会いし、ご自身の救いと献身の証を伺いました。

サムシュル師は、1944年に厳格なイスラム教徒の家庭に生まれました。キリスト教は邪宗であると固く信じていたため、19歳の時、友人と共に教会を襲撃しに出掛けました。しかし汽車に乗り遅れそうになり、飛び乗ろうとして足を滑らせ両足に重傷を負いました。気がついた時は病院のベッドの上でしたが、すぐに輸血をしなければ命が危ないため、近くの大きなバプテスト病院で治療を受けました。サムシュル師によれば、イスラム教徒は、預言者イエスは病気を癒すことができると信じており、イエスに癒しを祈りました。けれどもまだイエスが神の子であるとは信じていませんでした。病院で生まれて初めて聖書を開いて「あ

なたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」（ヨハネによる福音書15章16節）を読み、彼はイエスに選ばれていたこと、そしてイエスに祈るなら罪が赦されると知り「イエスが神の子であると信じさせてください」と祈りました。そしてマタイによる福音書3章と17章に記されている「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」の聖句に導かれ、イエスが神の子であると信じ、その年にバプテスマを受けてクリスチャンになりました。その2年後、神学校に入学し、卒業してからはインドネシア各地で開拓伝道、牧会に従事してきました。このような使徒パウロさながらの救いと回心の体験の中でこの賛美歌が作られました。

また1977年に日本バプテスト連盟女性連合の献金によって伝道用のバイクを購入し、40年たった今も大切にそのバイクを使っていることを感謝しておられました。



#### Berjalan sertaNya ブ(ベ)ルジャラン セ(ス)ルタニヤ 「主と共に歩む」

Dulu hidupku g'lap guilita

ドゥル ヒドゥック グ(ゲ) ラップ グリタ

以前は 私の人生は 暗闇

Ku berjalan merabaraba

ク ブ(ベ)ルジャラン メ(ム) ラバラバ

私は 歩む 手探りで

Tiada tongkat yang kupegang

ティアダ トンカット ヤン クベガン

ない 杖 ～する 私が頼む

Ku berjalanlah dalam bimbang

ク ブ(ベ)ルジャランラー ダラム ビンバン

私は 歩む ～の中を 不安

Sungguh nyaman berjalan sertaNya

スングー ニヤマン ブ(ベ)ルジャラン ス(セ)ルタニヤ

まことに心地よい 歩む 主と共に

Tak usah takut akan bahaya

タク ウサ タクット アカン パハヤ

必要ない 恐れる 危険を

T'rang benderang sinar pelitaNya

テラン ベ(ブ)ンデラン シナル ペ(ブ)リタニヤ

光 光り輝く 輝き 主の灯

Kini jadi aman

キニ ジャディ アマン

今は 平安がある

インドネシア語で  
賛美してみませんか？



## 「第13回礼拝音楽研修会」ご案内 NO.2

第13回礼拝音楽研修会は北海道道南地区、道東地区の2か所で開催されます。これまでの研修会は諸連合の協力をいただき全国に参加を呼びかける形でしたが、今後は連合単位からさらに地域に密着し、それぞれの教会で、なかなか参加できない方々とも出会わせていただき計画していきます。旭川の研修会は極寒の中での開催です。厳しい冬にあっても毎週の礼拝を守られている教会、信徒の皆様とご一緒し共に賛美できること、またどのような学びが展開されるのか楽しみです。



### 北海道・道東地区(旭川ブロック)

日程:2018年2月3日(土)10:00~14:00 礼拝音楽研修会(オープンプログラム)

開会礼拝、礼拝音楽の学び、語り合い、分かち合い

2月4日(日)旭川、旭川東光教会に分かれて主日礼拝、午後は研修を予定。

### 北海道・道南地区(函館ブロック)

日程:2018年5月12日(土)13日(日)の日程で検討しています。

それぞれの街・教会・人々と出会い、共に礼拝の恵み、賛美の恵みを分かち合わせていただきたく願っています。2か所での研修会準備と研修が祝されるよう覚えお祈りください。

## 教会音楽室からのお知らせ

### 1. コード譜伴奏譜新譜発行。(200円) 2017.11~

君が始まる(新生讃美歌569) 菊地るみ子

◆子どもの礼拝と賛美にどうぞ、ご活用ください。中高・青年を励まし、伴奏者育成にもお用いください。

### 2. やさしい伴奏譜 新曲13曲を追加発行します。

現行27曲に加えて13曲をあらたに発行します。合計で40曲となり、全曲注文の方は2000円、

13曲のみ購入の方は650円です。注文用紙はホームページからダウンロードできます。

### 3. 新生讃美歌小型判 記念品価格 1,500円で!購入できます。

進級祝い、バプテスマ祝い、各種お祝い事、誕生日プレゼント等の目的で購入できます。

お申し込みは教会を通してお願いいたします。申込時には記念内容を明記して、ご注文ください。

### 4. 奏楽者講習会支援を活用ください。

2つ3つの教会が集まっての奏楽者講習会を支援しています。講師は近隣の方を紹介し、1回の講習で終わることなく、学びが継続できるようにサポートしていきます。奏楽研修のほか、聖歌隊研修、新生讃美歌研修、など、対応することができますので、どうぞご相談ください。

◆詳細・申請用紙は教会音楽までお問い合わせください。

### 5. 新生讃美歌100曲までの評価表の閲覧について

賛美歌検討委員会は2008年より「新生讃美歌」の曲毎の評価作業を開始し、2015年には「中間報告」をもって100番までの報告をまとめご案内しましたが、今春(3/8)より100曲までの「評価表」を事務所にて閲覧可能としました。この度(9/29)、文言を整え「評価表」を更新しましたのでご案内いたします。賛美の推進とその取り組みのためにご参考ください。尚、複写は可能ですが、教会内でのみとさせていただきます。

### 6. 新生讃美歌CDROMバージョンアップⅡ 好評発売中。3,240円 税込み

伴奏ツールのほか、次週礼拝の賛美練習や、賛美歌選曲に活用されています。